



# 京都産業大学 ことばの科学研究センター 2023年度第3回研究会

日時：2023年7月26日（水）14:00～16:00

場所：4号館2階 総合学術研究所会議室

---

## 18世紀後半における古典知の集積と再創造—『十番虫合絵巻』をめぐって 盛田 帝子（外国語学部教授）

天明2年（1782）に、隅田川のほとりの木母寺で、経済的に豊かな武家歌人や古典学に精通した国学者・歌人、高い技能を持った江戸職人らが集合して、豪華絢爛な王朝復古的物合<sup>ものあひび</sup>が行われた。18世紀後半の江戸の人々が、どのように古典知を抽出し、何を再創造しようとしたのか。古典知を「いま」に応用して活かす才知や機転を、ホノルル美術館所蔵『十番虫合絵巻』のことばと絵から探してみたい。

---

## 歴史言語学研究の礎にある同源形式の比較

### 吉田 和彦（ことばの科学研究センター研究センター員・外国語学部客員教授）

比較方法や内的再建法といった厳密な科学的方法によって、めざましい発展を遂げてきた歴史言語学。しかし、音法則をひとつ提案する場合でも、その背後には綿密な形態論的配慮が要請される。

